

令和3年度 第5回磐田市多文化共生社会推進協議会 摘録

日 時	令和4年2月28日（月）午後7時00分～9時00分
場 所	磐田市役所本庁舎4階 大会議室
出席委員	池上 重弘会長、玉田 文江委員、藤田 允委員、川原 利彦委員、 渡邊 カルロス委員、相川 アンジェラ委員、青島 彰委員、 小沼 裕樹委員、松下 晴彦委員、松尾 真里委員、薛 堅委員 平野 利直委員、田中 琢門委員
事務局	地域づくり応援課 課長補佐、職員3人
オブザーバー	多文化交流センター（杉田、山田）

[会議内容]

1 開会

2 会長あいさつ

3 報告事項

- (1) 外国人市民（労働者向け）ヒアリング結果【資料1】
- (2) パブリックコメント実施結果【資料2】
- (3) 第4次多文化共生推進プランの最終確認【資料3-1】【資料3-2】

4 協議事項

- (1) 第4次プラン冊子（最終案）の見直し【資料3-2】
- (2) 各企業・団体・行政・学校・自治会の連携体制について

5 閉会

[資料内容]

- 【資料 1】外国人市民（労働者向け）アンケート結果
- 【資料 2】パブリックコメント結果表
- 【資料3-1】第4次プラン概要版（デザイン案）
- 【資料3-2】第4次プラン冊子（最終案）

[会議概要摘録]

1 開会（事務局）

- ・欠席者は2名「江間 啓之委員」、「高橋 ロウエナ委員」

市長挨拶

- ・池上会長には20数年間、磐田市の多文化共生に携わっていただいている。次期は静岡県教育長に就任される。関わったことのある方が静岡県教育長になるのはとても頼もしいこと。磐田市は、昨日から議会が開会した。重点施策として子供たちの支援、外国人情報窓口の拡充などをあげている。「安心」を中心に新しい施策を盛り込んできた。就任して10か月が経ったが、多文化共生をより良くしていきたいと思っている。先日もカルロス委員と市長室で意見交換をさせていただいた。ぜひこれからも様々な形で提案していただければと思う。

2 池上会長あいさつ

- ・先週末にあった新聞報道のとおり、4月から静岡県教育長就任に向けて動き出した。3月17日の本会議で議決されるまではどうなるかわからない。依頼を伺ったときは正直悩んだ。大学は65歳が定年のため、その前に退職するのは考えてもいなかった。決断した理由の1つは、県の教育委員会は2023年度に夜間中学校を磐田市に開校する予定である点。県庁所在地の静岡市でも浜松市でもないことは、私にとって挑戦的な課題である。高校の指導要領が令和4年度から変更される。テーマは「探求」。大学と共通することがある。2つ目は、高校の教員になりたかったが大学卒業後、教員採用試験に合格しなかった。その後、研究者の道を歩むようになった。しかし、巡り廻って高校教育に関わるチャンスがきた。人生における起承転結なのではないかと思う。今回が「転」だと感じている。磐田市とは、この協議会では最後であるが、これから夜間中学をはじめとして新しい関わりがあるのではないかと思う。磐田市は全国で初めて多文化共生推進プランを作成した市町の1つである。第1次プランから携わってきた。心に残っているのはリーマンショックのときである。関わる人数は少ないが様々な分野から人が集まる、この協議会の場が磐田市の強みだと思っている。「県西部の多文化共生の横の繋がりが広まっている。」と豊田市との会合のときに話した。豊田の担当者はとても関心を持っていた。今まで各市町が単独で行っていたことを、共同で行う動きが進んでいる。そんな様子を見て一つ歯車が回り始めたと思う。

このタイミングで交代でもいいのではないかと思った。

また、第2世代が育っていると感じた。第2世代が独自に企画してシンポジウムを開催した。時代は変わっていると思うようになった。

これからを担う若手が育っていると感じた。バトンを渡したいと思う。

3 報告事項

・ インターナショナルフェアの開催結果

【川原】

- ・ インターナショナルフェアの報告をする。

昨年に引き続き、実行委員長として関わった2年間はコロナ禍により思うようにいかない面もあったが、3市合同で行えたことが大事であると感じる。

外国人と一緒にフェアを開催すること、外国人と触れ合う場を作ることが重要だと思う。能力がある外国人がたくさん暮らしているはずであるためこのフェアで発掘することも大切なことだと感じている。次年度も開催を企画している。

(1) 外国人市民（労働者向け）ヒアリング結果【資料1】

- ・ 事務局より資料1について説明

(質疑応答)

【平野】

- ・ 自社の社員が回答することは知っていたが、どのような回答を知らなかったため、中々、赤裸々な意見で驚いた。
- ・ SNSでの情報発信はとても重要だと思う。SNSは過去の投稿を遡ることができ、とても有効である。対応言語に英語も導入されるとなお良い。
- ・ 日本語学習については、やる気のある人は熱量が違う。勉強したいけれど学ぶ場所が無くて困っている人がいる中で、気持ちに応えることができる磐田市は、他市を見ても充実している。

【川原】

- ・ 貴重なデータ結果である。外国人と日本人が関わるきっかけとして、インターナショナルフェアで、企画の段階から外国人が関わるような工夫ができたらと思う。
- ・ イベント情報は、SNS以外に学校から保護者へ伝われば良いと思う。
- ・ 外国人の雇用は、企業に対する認証制度などの仕組みで、市として守っていく取り組みが必要であると思う。

【池上】

- ・ 浜松が認証制度を導入した。応募企業は社労士と国際交流協会のヒアリングを受けていた。参考にしても良いと思う。
- ・ 外国人向けのイベントを新規で行うのは難しいため、既存のものを上手く伝えて活用することがお金を掛けずにできることだと思う。

(2) パブリックコメント実施結果【資料2】

- ・事務局より資料2について説明
(質疑応答)

【池上】

- ・外国人の出生率はどのように計算するのか。

【事務局】

- ・市民課で集計している数値から、確認出来る。
これまでの数値も記録しているため、抽出してグラフ化することが可能

【池上】

- ・磐田市の場合は、市民病院に通訳者がいる。
安心して出産することにつながる。
- ・外国人が人口に占める割合は年々高くなっている。
今後を見据えると出生率の推移を辿ることは重要なことだと思う。

(3) 第4次磐田市多文化共生推進プランの最終確認【資料3-1】【資料3-2】

- ・事務局より資料説明

【平野】

- ・表紙の言語にポルトガル語、フィリピン語なども載せたほうが良いのではないか。人口の多い国籍別に吹き出しの大きさを変えるなどしても良い。

【田中】

- ・母国語の言語が載っていると親しみやすい。

4 協議事項

(1) 第4次プラン冊子（最終案）の見直し【資料3-2】

- ・事務局より資料説明

【池上】

- ・P26の策定経過「若い世代へ多文化共生ワークショップ」にていただいた意見を反映した部分や、受け止めた意見は何かあったか。

【森】

- ・日本語がわからない事が原因で学校で孤立してしまうこと。
日本人と関われる、知り合えるような交流の場が欲しいという意見を受けた。
次年度から、日本人と外国人が互いを知り合うきっかけとなるイベント企画を
していこうと考えている。

【玉田】

- ・P14(2)言語対応と日本語学習機会の充実は2つのテーマであるが説明が後述のみになっている。
- ・P16⑮の施策の対象は現在は外国人を雇用していない企業向けか伺いたい。

【事務局】

- ・P14は説明分に解説する文言が抜けていたため再検討する。

- ・⑭は現在雇用している企業、⑮については雇用している企業としていない企業のどちらも対象と考えている。

【玉田】

- ・これから外国人を雇用する企業を増やしていくべき。
そのため雇用していない企業向けなのではないか。

【事務局】

- ・外国人を雇用している企業も、日本人と外国人を平等に雇用するよう啓発していきたい。

(2) 各企業・団体・行政・学校・自治会の連携体制について

【池上】

- ・令和4年度からプランが開催されるが、委員の立場で今後できることをお話いただきたい。
順番に1人ずつ、意見を伺っていきます。田中さんからお願いします。

【田中】

- ①企業内の日本語教室の充実
- ②企業と国際交流協会の連携した教室
- ③日本語学習のモチベーションアップ、磐田市で日本語を学ぶメリットの広報
 - ・永住・定住権を持った外国人、主にブラジル籍の市民は日本語を学ばなくても日本で生活が出来てしまう。なぜ学ぶのか、学ぶと何が良いのかをしっかりと伝えるべき。
 - ・派遣会社と連携して、企業に対しても日本語学習の必要性を伝えていきたい。

【池上】

- ・派遣会社との連携は永遠の課題である。
いかに派遣会社に対して行政と連携するメリットを示せるかが重要

【渡邊】

- ・外国人市民が日本語を学ぶことで、様々な課題が解決されていく。
そのために、日本語を学ぶメリットを発信する、SNSを活用して届けていく。
- ・市が講師を集め、派遣会社は従業員を集めるなど役割分担をして連携して日本語教室を実施するなどいいのではないかと思います。

【薛】

- ・日本語を学ぶ場を様々な機会を提供する。日本語を話せない人が困るのは市役所や病院である。そこで手助けとなるのがやさしい日本語やSNS
- ・キーパーソンとなる外国人はいったいどのように連携していくか難しい。

【池上】

- ・キーパーソンの発掘・育成は、しっかりと考えて探すことが大切

【松下】

- ・外国人だけの企業説明会などがあってもいいのではないかと。
市と学校が開催することで信頼性が生まれる。

【池上】

- ・静岡県経済産業部が昨年度企業を対象としたアンケートを取っている。
日本語能力と仕事内容についてのアンケート。結果が出たら市にも共有する。

【小沼】

- ・生徒を見ても日本語に困っている様子はない。
心配なことは子供たちが将来を見通せるかどうか。
- ・第2世代が活躍しているため、その方と生徒が関わる機会を設けることでロールモデルの紹介ができればと思う。一緒に何か活動する中で関わりを持っていきたい。

【池上】

- ・第2世代の自主的な活動団体に、COLORS という団体がある。
田中さん、説明をお願いします。

【田中】

- ・外国のルーツを持っている子が集まる団体
外国人が集まり、学校で中高生に対してワークショップを行い、将来のことなどを話し合う機会を設けていた。

【池上】

- ・現役の大学生と大学卒業後の若者が主軸となり活動している。
現在は、浜松国際交流協会がバックアップしている。

【山田】

- ・多文化交流センターでは、学校との連携がとても重要だと認識している。
通っている生徒が悩んでいることや困っていることが、具体的に何かを知ったうえで適切なサポートをしたい。
そのために、学校と連携して情報共有していきたい。

【池上】

- ・教育委員会が仲介することで、学校と連携することが可能になるのではないかなと思う。現在は、オンラインを活用して簡単に繋がること出来ると思う。
ぜひ、要望を学校教育課へ伝えてほしい。

【山田】

- ・オンラインで開催する場合は、個別の問題もあるため学校別に開催したい。

【杉田】

- ・プランの内容は進化している。P17、P18 はとても大切なことだと感じている。
- ・日本語指導者を、誰が育成するのか明確に役割を決める必要があると思う。
なんとなく話したり、聞いたりすることはできるが正しい日本語を勉強したいという成人の方が増えてきたと感じる。子供たちだけの教育だけでは足りない。
- ・そのような要望に応えるために、指導者を育成することは早期に解決しなければいけない課題だと感じている。

【池上】

- ・今後、大人が学び直すニーズは顕在化してくるのではないかなと思う。

【玉田】

- ・交流センター講座などの身近なイベントを多言語で発信する。
- ・アパートなどは自治会費は家賃と一緒に振り込まれることが多く、外国人が自治会に加入している自覚がない。
派遣会社とアパートを通じて連携できればと思う。

【池上】

- ・20年前に浜松市で日本語教室に携わった。ある日、部屋が空いていないため、隣の公民館の和室で書道教室を開催した。外国人生徒は非常に喜んだ。
- ・日本人にとって当たり前な文化や、すでにもっている知識などを活用しながら交流できたらと思う。そのくらい気軽に身近に行えたらと思う。

【藤田】

- ・外国人の方に対して防災活動は協力して開催する。
日本文化のお祭りやスポーツなどのイベントを開催している。
- ・自治会だけでは出来ないため、地域づくり協議会を中心として活動を続けていきたいと思う。

【相川】

- ・労働者のアンケートの結果を見ると、市の取り組みや支援があるのに外国人に情報が届いてないことが分かった。どこに何があるのかインフォメーションできればいいと思う。トピックごとに整理したものや別資料があればいいと思う。
- ・外国人としてどんな文化や生活をしているのか、日々、職場の方に話している。そこで少しずつ理解してもらっている。まだまだ外国人に無関心な人はいる。

【青島】

- ・支援員に外国人がいると生徒も感じ方は異なる。子供たちが自然と、日常的に困っていることを話せる外国人の支援員も必要であると感じる。

【池上】

- ・少しずつ、PTA役員にも外国人が増えている。
支援員についても外国人の方を知っている。

【平野】

- ・連携体制として、本協議会の構成メンバーを多様化するのはどうか。
技能実習生管理団体、外国人受入企業認定支援機関、入官庁、警察、ハローワーク、消防が入ると各現場の実態がわかる。
- ・外国人従業員が今年3人出産した。その後0歳児の保育園を探したが、なかなか見つからない。外国人の方は保育園の探し方もわからない。
出産するときも、ポルトガル語の通訳はあるがベトナム語の通訳はいない。
産婦人科と通訳の連携で安心した出産が可能になるのではないかな。
- ・リーマンショック時と比べると、日本語教室の先生に変化が見られた。
生徒は楽しそうに授業を受けている。企業内の日本語教室と国際交流協会が連携できれば面白いと思う

- ・今年には自治会の組長を行った。私の企業の寮に住んでいる職員は自治会活動に必ず参加するように促している。そして従業員は地域の人と仲良くなって帰ってくる。企業と自治会が連携して、自治会活動に参加するよう促してみるのも良いのではないか。

【池上】

- ・委員として参加してもらうのか、ゲストとして参加してもらうのか、どちらが良いか事務局で考えていただきたい。
- ・行政が企業にメリットを訴えかけるよりも、同業者が話す方が聞く耳を持つときがある。

【松尾】

- ・幼少期から集団の中に入れるようにすることが大切。
摘録
- ・就園に力を入れていく。幼稚園の預かり保育は16時まで。
外国人の方は働き熱心のため幼稚園は選ばれづらい。幼いころから親から離れて託児所に預けることを日本人は可哀想だと思う固定観念がある。
そういったところも改善する必要がある。
- ・子供を預ける施設を、親が日本語を学べる施設の近くにできると学びやすい。

【川原】

- ・インターナショナルフェアはまだ日本人スタッフが多い。
外国人を巻き込んで企画運営していきたい。
地元のお祭りへ外国人が触れ合う機会をつくるのも面白いのではないか。
- ・国際交流協会はJICAが設立したJP-MIRAIに加盟した。磐田市としても様々な情報が入るため加盟を検討してもらいたい。

【池上】

- ・国際交流協会が様々な学びのプラットフォームになるのは間違いない。
- ・皆様の意見から様々な課題が見られた。
20年前に比べて明るい課題が見え始めたのではないか。
本日出たいくつものアイデアを実現していけたらと思う。磐田市の協議会は、委員の意見を聞くインプット、皆さんへ話すアウトプットとして重要な場であった。
磐田市の多文化共生の推進を念じています。
ありがとうございました。

5 閉会